

今後の中心市街地活性化の重点課題
～新たな「まちなか再生」に向けて～
(骨子案)

中心市街地活性化評価・推進委員会

◆ 現状評価・今後に向けた課題

- 中心市街地を取り巻く状況
- まちづくりリノベーション・低未利用不動産の活用促進
- 基本計画に係る仕組みの見直し

等

◆ これからの中心市街地活性化の意義

- 「都市の利便性」と「地方の豊かさ」両面のポテンシャルを持つ“まちなか”を魅力あふれるものとするのが地方創生の重要課題。
- 歴史・文化等を有し、重点的な投資がなされ、一定の官民ストックが集積し、効率的な再投資を可能とする“まちなか”の再生を最優先に考えることが重要。
- 地域住民等が世代を超えて愛着を持ち、人々の「居場所」として包摂性や多様性を有する“まちなか”をつくり上げる先に地方都市のあるべき姿が実現。

等

◆ まちなか再生に当たっての視点

- 地域の強み・特性を生かす「ローカルファースト」を志向する
- 「消費中心の場」から「生活を充実させる場」へ
- 様々なチャレンジを可能とする「アイデンティティの中心」に
- 公共投資を基盤としてその先の「民間投資」へと繋げる
- 中心市街地と郊外・大都市等の「Win-Win」を図る

◆ 将来に向けた中心市街地活性化の施策の新機軸

- ローカルファーストのまちなか再生

等

◆ 地域の創意と取組を支える仕組み

- 地域の創意を後押しする支援・インセンティブ措置の拡充・強化
 - ・ ソフト・ハード両面からの支援の強化
 - ・ デジタル田園都市国家構想交付金の活用強化

等

- 外部人材の活用など、まちなか再生の担い手の確保・活用強化
 - ・ 自治体の取組段階に応じた外部専門人材の派遣等の促進
 - ・ まちなか再生を担うキープレイヤーの交流等促進

等

- 計画認定制度を見直し、ローカルファーストに適した仕組みへ
 - ・ 認定要件についての運用緩和
 - ・ 基本計画作成に要する作業負担の軽減

等

- 国・市町村の連携体制を新設し、自治体の取組意欲を喚起・醸成
 - ・ 自治体間の交流や横展開の促進
 - ・ 自治体の意欲喚起、取組自治体の裾野の拡大

等

◆ 新たな時代のまちなか再生に必要な重点的な分野

- それぞれの地域の創意工夫で、強み・特性を活かした課題解決の取組を推進。全国共通課題への対応をモデル化しつつ、ローカルファーストの取組を推進

- ・ まちなかの商店街や商業機能のリノベーション等の民間の取組の後押し
- ・ 起業・創業によるチャレンジの場とイノベーションの創出環境の形成
- ・ 子ども・若者・女性・高齢者等の多様な人を包摂する生活・暮らしの場としての充実

等